



岡村 恵子 議員(日本共産党議員団)
新型コロナウイルス感染症
対策と各種支援策について

Q 県の補正予算により、7月から1か所目の地域外来・検査センターが設置され、さらに本市において2か所目が設置される運びになっているが、1か所目と2か所目とではどのような違いがあるか。また、検査の拡充に結びつけることができるのか伺いたい。

A 健康医療部長

現在、1日5件程度の検査件数で対応していますが、新たなセンターでは15件程度処理でき、市内において20件を超える検査が可能となり、場所についても、1か所目と2か所目は距離的に離れているので、市民にとって行きやすい場所に行けると考えています。また、2か所目は、車で行くことを前提にしていますが、車から出て検査する体制で、徒歩で来る方にも対応でき、1か所目よりもすぐれた形で検査が拡充されると考えています。

その他の質問
☆令和元年東日本台風被害時の対応の総括と改善について



本郷 淳一 議員(公明党議員会)
国道50号沿線の開発構想
について

Q 国道50号沿線の開発は、迅速かつ確実に実現しなければならぬと考えています。今後の進め方について伺いたい。

A 市長

国道50号沿線の開発は、雇用の創出、定住の促進、財政基盤の強化など、多くの効果を本市にもたらすものです。加えて、渡良瀬川への新たな架橋を含む南部幹線や南部道路を整備することにより、本市の活性化はもとより、本市を含めた県南地域の発展、ひいては県境を越えた広域的な発展に寄与するものです。事業化に際しては、現在進めている候補地の調査の結果などを踏まえ、来年度予算に基本的な計画策定のための予算を計上させていただき、事業の推進を図りたいと考えています。

その他の質問
☆令和元年東日本台風復旧・復興について



飯田 昌弘 議員(蒼生会)
安全安心の学校教育について

Q 児童生徒の災害対策について、東海地震を想定した防災教育に取り組み静岡市内の中学校では、東日本大震災前の2008年からスクールパックの名で、生徒それぞれが飲み物などを小箱や持ち出しやすいリュックに収め、学校で夜を明かすような事態に備えてきた。阪神・淡路大震災から26年がたった今、防災、減災意識を高めるために各学校にスクールパックを紹介し、取り入れる努力をお願いしたいと思うが、どのように考えるか伺いたい。

A 教育長

災害発生時の備蓄品として水や非常食を用意することは、その費用負担の課題はありますが、防災教育の改善充実を図り、防災、減災意識を高めるために有効な手段です。

今後、校長会議等の機会を利用し、紹介したいと考えています。

その他の質問
☆都市機能の充実したまちづくりについて

